

PEACE ACTION 2024

沖縄平和行進

沖縄で感じたことを後生に伝える

青年部 石本 洗一

今回初めて沖縄平和行進に参加させていただいて全国の青年部の方がた、沖縄県在住の人びと、そして最前線で抗議活動をされてる方たちと触れ合っ、とても勉強になりました。

正直に言いますと、事前にマスメディア等で見た情報より、ひめゆり資料館の戦争の生なましさ、



凄惨さを目の当たりにして目を背けたくありません。

それでも現地で見たもの、聞いたこと、感じたことを後生に伝えて

いくという行為は、決して戦争を繰り返さないためにも、僕たちがなすべき義務だと思います。

歩いて基地の大きさを実感

青年部 山本 光伸

初めての沖縄平和行進に参加しました。デモ行進で基地の周りを歩き、基地の大きさを体感したり、ひめゆりの塔やいくつかの壕の視察に行き、戦争の残酷さや当時の起こったでき事を見て、胸が苦しくなり、戦争というものをいかにやってはいけないというのを感じました。

現地に行かないと知れないこと、感じれないことがあり、現地に行く大切さを知り、いい経験になったと思います。



「震度7」を体感しました！

5月26日(日)、教宣部フィールドワークとして、大阪市阿倍野区にある阿倍野防災センター体験型防災学習施設「あべのタスカル」に、執行部、教宣部員、組合員親子も含め総勢13名で、参加し学習しました。

1995年に発生した阪神・淡路大地震以降、関西でも東南海・南海地震の発生が危惧される中、地震をはじめとした大災害に対する、市民の防災知識と技術に対するニーズが高まってきています。

阿倍野防災センターは、広く市民の防災に対する知識と技術を総合的な体験を通して学習できる施設という事で、防災体験学習に参加してきました。

体験コースが始まるまでの時間、おおさか防災情報ステーションエリアで大阪市全域の地形特性や被害想

定を自分たちの住んでいる所や職場の地域の南海トラフ巨大地震での想定震度や液状化危険度、河川・内水氾濫地域などを分かりやすく確認できました。



防災体験学習が始まり、まずは地震発生直後から避難するまでの間に取るべき行動や注意点などを学習。

火災が発生してしまった場合の消火器での初期消火も体験できましたし、煙中避難体験もしました。煙は上の方にたまりやすく、低い姿勢で

避難しないといけないのですが、急ぎすぎると煙が拡散され、視界がすぐに失われる事もわかることに気づきました。

場所を移動し、地震災害時の再現したエリアで実寸大での津波の映像や地震で窓ガラスが落ちてくる様子などを視覚的に体験することができました。

そして次は起震装置で震度7を体験しました。上下の揺れだけでなく、変則して横揺れも、とても立っている状態ではなかったです、これが不意に襲われると考えたらゾッとしました。

最後に、大地震発生時の備えを学ぶとして、災害時の対応策や備蓄品などについて教えて頂き、体験学習が終わりました。

これから起こりえる災害に家族や仲間をどうやって守るか、どうやって備えるかを考える良い機会になりました。

(執行部 宮脇 祥三)

Xバンドレーダー基地撤去を訴える

6月2日、米軍Xバンドレーダー基地の撤去を！6・2京丹後現地集会に執行部4名で参加してきました。

この基地は近畿で唯一の米軍基地であり、10年前に地域住民の反対を押し切って建設・運用が開始されました。

Xバンドレーダーは日米共同軍事作戦の起点となる情報収集・監視の役割を果たし、得られた情報はミサイル攻撃と基地の防御(迎撃)に利用されます。日米韓のデータの共有や敵基地攻撃能力保有、日米の指揮権の一元化の動きのなかでXバンドレーダー基地は、戦時には攻撃対象になるその危険性が格段に高まっています。基地の撤去を求める活動は重要であり、その意義を広く知らせていくことが大切です。

近畿各地から約100名が結集。現地基地を監視し、粘り強いの声をあげる「宇川の会」の方のあいさつや韓国の反基地運動の連帯

のメッセージなどもありました。



吉本副委員長が大阪支部の連帯メッセージとして「国会などで、たびたび日米地位協定の問題が取りざたされています。日本の国土のどこにでも米軍基地を置くことが許されており、北方領土をめぐる交渉においても返還された場合、米軍基地が配備される可能性からロシア側が懸念しており、北方領土も返還されないという状況です。また、密約で米軍人・軍属の犯罪に対しても捜査権・裁判権すら十分に行使できません。戦後日本と同じく軍事同盟のもとで主権を失っていた国々は、そこから抜け出し、

正常な主権国家への道を歩み続けている中、今なおこの状態が続いている背景には、国民の生活が物価高や実質賃金の低下に苦しんでいること、裏金づくりや脱税、統一教会との繋がり、経団連中心に優遇してきた自民党政権の責任が極めて重大であると考えます。あらためて主権国家を取り戻し、憲法の前文に宣言されているその主権は在民にあることを再認識し、今後の労働運動や平和運動に活かしてまいりたいと思います。」とアピールしました。



現地集会に参加し、自然豊かな京丹後で、基地の存在が異様であると感じました。武力で平和は作れない。米軍の基地など不必要だと改めて実感しました。

(執行部 宮脇 祥三)

有意義だった意見交換

第2回全港湾海コン・トラック・バス・タクシー合同会議

第2回全港湾海コン・トラック・



バス・タクシー合同会議が、5月28日に日港福会館で行われました。

全国から代表者29名が集い、大阪支部からは代表2名が参加しました。

今回は翌29日に衆議院第2会館での要請行動に対して、事前に

質疑に対する回答を前もって書面でもらっており回答は受けたということで、当日の各省庁の対する、質疑意見交換などに特化しようということで意思統一し、明日の要請行動の確認をしました。

そのあと、交運労協学習会を慶島事務局長から「2024年問題」の課題と対策をテーマに物流の停滞が懸念される「2024年問題」の主な課題は荷待ち、荷役時間の削減、一人当たりの輸送量の向上、多重下請け構造の是正等による物流の生産性向上に適正運賃の収受とドライバーの賃上げなど約33ページにわたる資料から学習を受



けました。最後に、各支部の活動報告を受け、春闘総括をして1日目を終わりました。

2日目は、国交省、厚労省の各担当者との質疑意見交換等を衆議院第2会館で行いました。今回は事前に要請文の回答を、もらっていることから、回答以外の質問や問題点を各支部から部門別に熱く意見され、あっという間の2時間でしたが、有意義な時間を共有できたと思います。

(執行部 宮脇 祥三)